



nara no tobira



奈良のトビラ



<https://naranotobira.com>

X narano_tobira
f naranotobira

発行：a m u

〒631-0811 奈良市秋篠町2-14
(三条通事務所 amu base / 奈良市角振町39-1 山田ビル2F)

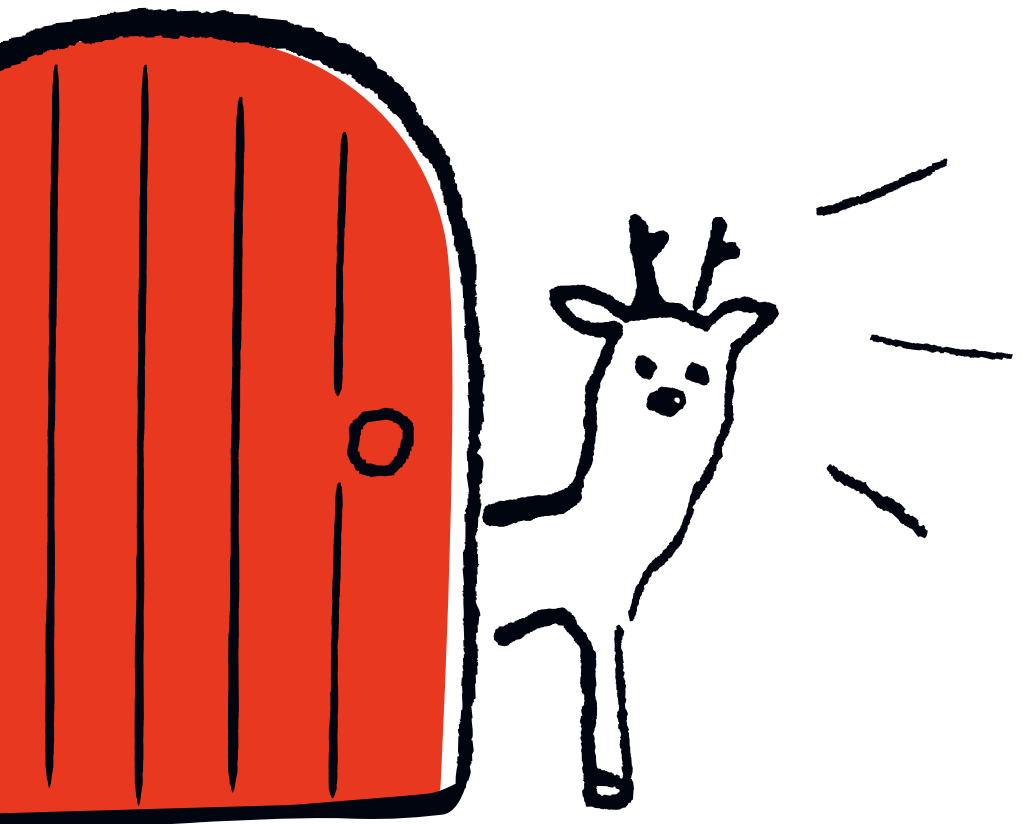


<https://amucoto.jp>

奈良のトビラ、 開きます。

「奈良のトビラ」は、奈良のモノを連れて、全道府県をめぐるアンテナストアプロジェクトです。

奈良は旅する場所であり、暮らす場所。歴史が深いことは言うまでもありません。でも、それだけではないんです。奈良には、想いの詰まったいいモノや風土を生かした美味しいモノ、これ実は奈良生まれというモノまでたくさんあります。さらに、奈良県は39市町村から成り立ち、一口には語りきれないほど地域色もさまざまです。そんなモノやコトは奈良の宝物。たくさんの方に伝えるために「奈良のトビラ」を開きます。



福田彩乃 Fukuda Ayano

古都音 株式会社
普段の仕事はプロデューサー

奈良県生駒市出身。奈良には本当に素敵なモノがたくさんあって、多くの方に知ってもらいたいし、手にとってもらいたいし、もっともっと奈良を好きになってほしいと考えていた時に、トビラ計画にお誘い頂き即決参加。奈良のモノ達と全国に行脚できるのもまた嬉しい。楽しくてワクワクする奈良のトビラ! たくさんの方にお会いすることも嬉しいです。



写真のトビラは安倍文殊院 金閣浮御堂

はじめまして、
わたくしたち
こういふ者です。



Members of
Nara no Tobira

岡下浩二 Okashita Koji

合同会社 ちとせなら
普段の仕事はツアープランナー、カメラマン

奈良県奈良市出身。東京の写真スタジオに勤務していた頃、東京国立博物館で奈良の仏像を見て、仏像やふるさとの魅力を再発見し、奈良へUターンしてきました。奈良へのトビラはいつ、どこで開いているかは分かりません。全国を周る中で、奈良のトビラの活動が、奈良を好きになるきっかけの場になることを願っています。



写真のトビラは自宅

徳永祐巳子 Tokunaga Yumiko

amu
普段の仕事は編集者

奈良県奈良市(旧都祁村)出身。地元タウン情報誌の仕事にはじまり、24年間ずっと奈良で地域と関わり編集の仕事をしています。「奈良にはなにもない」と言われる時代もありましたが、とんでもない! 古さも新しきも、いろんな奈良があります。「奈良のトビラ」を通して、今の奈良をお伝えしたいです。奈良の魅力を分かち合えたら幸いです。



写真のトビラは三条通の事務所
| amu base |

上村恭子 Uemura Yasuko

合同会社 ココトソコノ制作室
普段の仕事はイラストレーター

奈良県奈良市出身、奈良県吉野郡下北山村在住。奈良市も、下北山村も、県境のある意味「奈良のトビラ」のような場所で育ち生活しております。奈良も好きだけでなく他にも好きな場所はいっぱいあります。日本の色々なところにおじゃましながら、この街が好きなら、きっと奈良のココも好きになると思うよ! ...そんな自分の大好きな音楽をすすめるようなノリで自分の好きな奈良を推していくつもりです!



写真のトビラは下北山村 普門寺

生駒あさみ Ikoma Asami

一般社団法人ならにみつ
普段の仕事は編集者、雑貨カフェ経営者

茨城県日立市出身。20歳の時に旅をした奈良に魅了され、当時住んでいた東京から15年間通い、2014年に奈良に移住しました。奈良で見つけて、知って、体験したことは他の場所には真似できません。奈良のトビラを各地に開くことは「推し活」であり「布教」です。奈良は素敵な所・人・モノがたくさん! などを伝えていきます。



写真のトビラは奈良県庁



そのトビラを、
開いてみると。

催

住

食

衣

歴史文化に触れる

一つの町、一つの村、一つの地区。それぞれに独自の風習が根付き、暮らす人々がいます。長い歴史を持つ行事、伝説を残す風景、新しいミッションを掲げる取り組み。どんな思いで続けられてきたのでしょうか。あるいは新しい生活様式をなぜ始めることにしたのでしょうか。見て聞いて話して知る機会にぜひ一緒にしませんか？

工芸を身近に

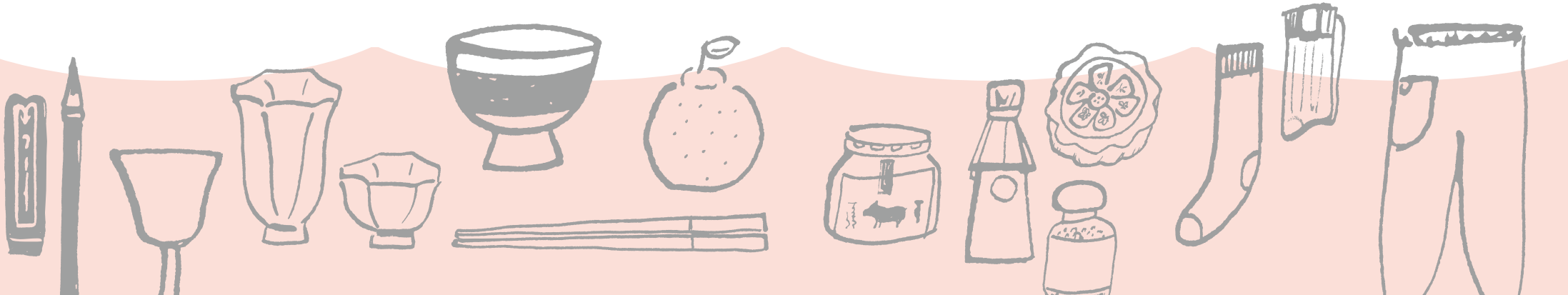
奈良晒は「麻の最上は南都なり」と称えられた伝統的工芸品。今も麻のふきんなど身近なアイテムが人気です。奈良の工芸の技の多くは社寺との関わりの中で磨かれました。抜ぎんでて耐久性に優れた漆芸はその代表格でしょう。奈良出身の茶人・村田珠光はわび茶の祖とされ、茶釜や茶器なども代々作り続けられている工芸です。

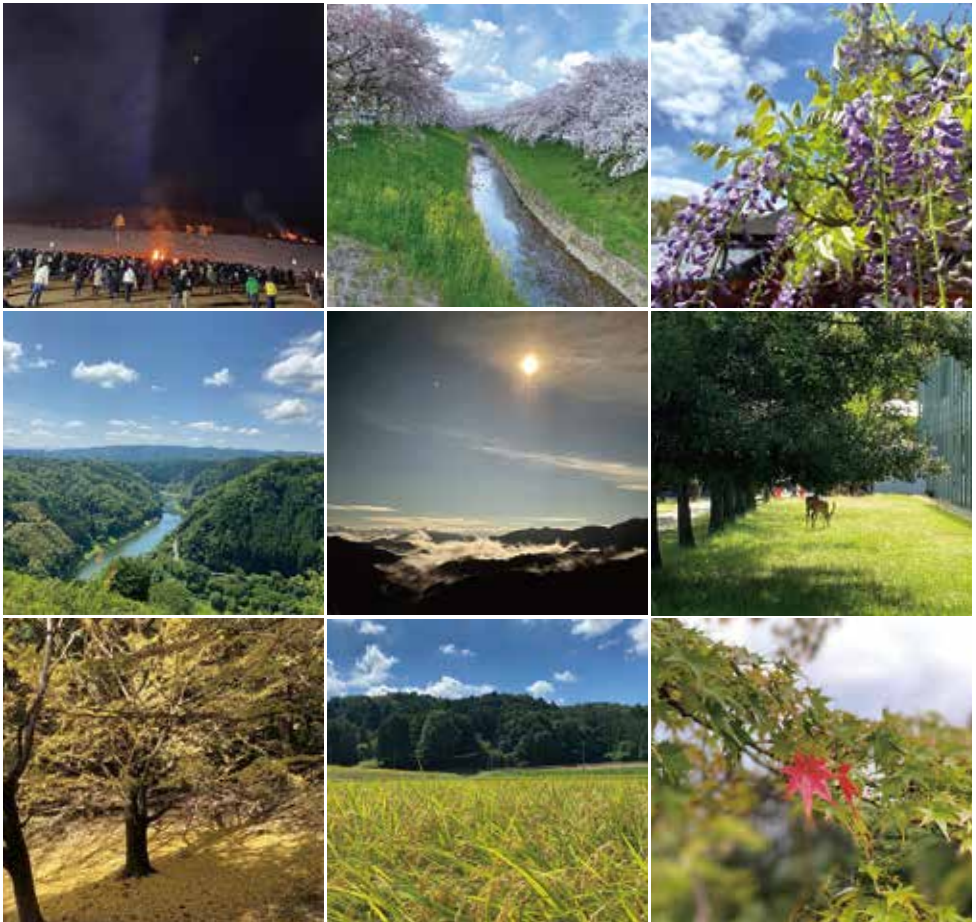
風土を味わう

例えばお茶。日本でのお茶の発祥は奈良とされ、山間地域で栽培される大和茶は高品質で知られます。平野部から山村まで各地の異なる気候風土に育まれた野菜や季節の果物、各種のブランド肉に清流で育つ川魚。豊かな素材を生かした加工品も多種多様です。饅頭の起源も奈良と言われ、別腹愛好歴も年季が入っているんです。

身にまとうモノ

白地の木綿に藍染めを施した大和緋は幻の綿織物となりましたが、その流れを汲み奈良ではメリヤス編みなどの繊維産業が興りました。今、奈良県の靴下の生産量は日本一です。皮革製品も多く作られています。衣服やカバン、足元を彩る布や革小物。正倉院文様などの意匠も楽しい奈良生まれの身にまとうモノたちをお届けします。





奈良の暮らし、四季折々の風景 / 左上から冬の伝統行事「若草山焼き」/ 佐保川沿いの桜並木。自転車で駆け抜けるのも心地よい / 万葉集に登場する花々で季節を感じる / 北は奈良市月ヶ瀬、南は野迫川村。空の移ろいととも / 奈良公園周辺で出会える神の使い(鹿) / 仕事に向かう途中で出会ったイチヨウの絨毯 / 実家の田んぼ。毎年豊作を願う / 夏に見つけた真っ赤なモミジ。

トビラの先に、
奈良があなたを
待っています。



「コロナの影響で、生涯勤め上げると信じていた仕事を離れる決心をし、3年前に奈良県の上北山村の求人を見つけ、縁もゆかりも無い場所に移住しました。今やこんなにステキな場所に出逢えて本当に幸せです。」関東から移住して来られた50代の女性が奈良の魅力にはまったというお話。こんなお話を聞くと「やっぱり奈良はええとこやな」とうれしく思います。

私は生まれ育った奈良を拠点に長年編集の仕事をしていましたが、取材やインタビューを通して奈良で暮らす人、働く人の生き方や想いに触れ、奈良でどんな景色を見ているのかを知ることができました。それが自分になかった視点だとすると、新しい奈良との出会いに心がじんわり温かくなります。奈良で暮らす者の特権だと思います。

奈良は、噛めば噛むほど味わい深く、知れば知るほど深みにはまる。発掘調査に例えると、時間をかけて掘り続けることで新たな事実と出会える、そんなワクワクする場所です。みなさんの好きな奈良も、ぜひ教えてください。

「奈良のトビラ」をくぐると、昨日とちよっとだけ違った奈良と出会えるかもしれません。そんな発見や再発見も楽しんでもらえたらうれしいです。

県内39市町村、それぞれの光やおいを感じに、ぜひ奈良へ。奈良公園の鹿さんたちも、私たちも、あなたの好きな奈良でお待ちしております。

文・写真 徳永祐巳子 (amu)



奈良のトビラを開きたい!皆様へ

✉ naranotobira@gmail.com

1. 都道府県名
 2. なぜ奈良のトビラに来てほしいかの理由
 3. ご依頼者様のお名前、連絡先、プロフィール
- を添えて上記メールアドレスまでご連絡ください。

奈良のトビラ公式サイト

<https://naranotobira.com>



旅はまだ始まったばかり。
あなたの町にも開きませんか？

全都道府県をめぐるなんて、なかなか壮大な目標を掲げたものです。何年かかるかわかりませんが、やる気だけは十二分！北へ南へ、東へ西へ。まだまだ旅はこれからです。

今はオンラインで気軽に情報共有できる時代ですが、奈良で発信して待っているだけではお届けしきれないと感じています。あなたの町に「奈良のトビラ」を開き、実際に奈良のモノやコトを手にとり感じてもらいたい。奈良にゆかりのあるスタッフとの会話も楽しんでください。

第一弾大阪編は、2023年7月21日～10月15日までの約3ヶ月間、大盛況のうちに終わりました。第二弾は東京へ。2024年1月11日～1月21日の11日間、日本のはじまりの地、奈良からまいります。



第一弾 | 大阪編

大阪編は、フダンを新しくする商業スポット「あべのand (アンド)」の1階入り口すぐの絶好ポジションに開きました。2週間ごとのテーマ棚も展開し、最終的には約640アイテムが並びました。「知らない商品ばかり」という声や常設店舗を切望するお客様に、早手応えを感じた第一弾でした。